藤森茂男「夏の小樽運河」1985年　運河画廊蔵

小樽運河・いまむかし

運河保存運動の父・藤森茂男 特陳

2015年4月25日(土)～7月5日(日)

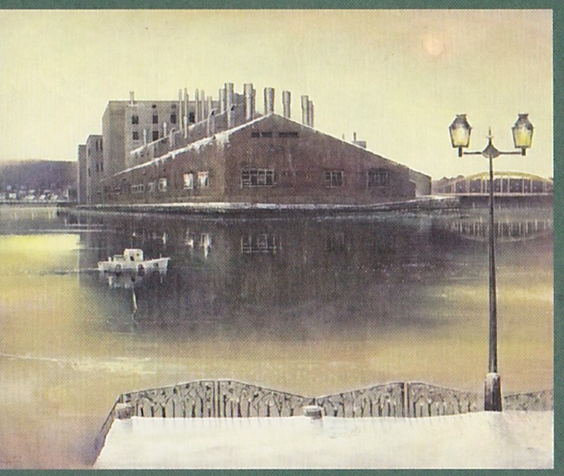
市立小樽美術館
otaru city museum of art
〒047-0031 小樽市色内1－9－5
Tel:0134－34－0035　Fax:0134－32－2388

S. Fujimori '85

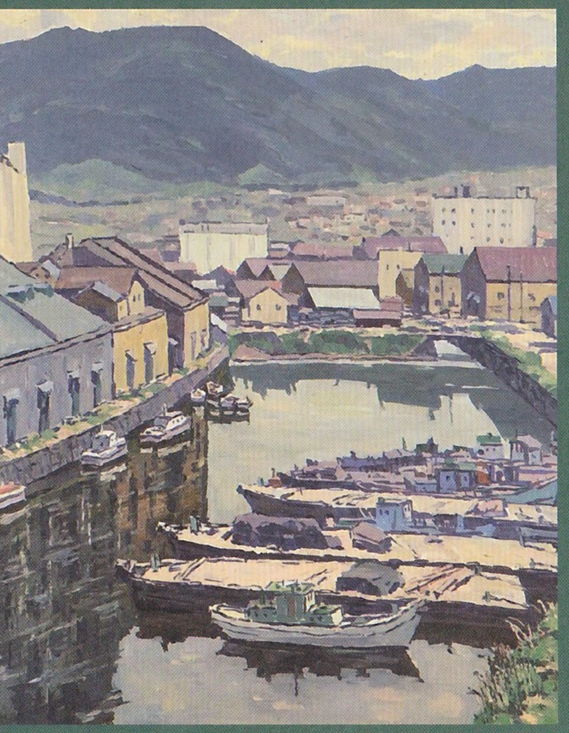
■開館時間 9:30～17:00（最終入館16:30）　■休館日 月曜日、4／30(木)、5／7(木)・8(金)・12(火)・13(水)
■観覧料 一般400(320)円、高校生・市内高齢者200(160)円 中学生以下無料 ※(　)内は20名以上の団体料金　※「3階一原有慎記念ホール」共通

共催：北海道新聞小樽支社　UHB北海道文化放送　　後援：市立小樽美術館協力会　国立大学法人小樽商科大学ビジネス創造センター　梁川商店街振興組合

大和屋 巌 「運河暮色」 1985年



羽山雅愉 「冬色」 2012年



石塚常男 「運河(夏)」 1975年

小樽運河・いまむかし

小樽運河は、かつて経済の隆盛期には、はしけや荷役の人々の姿とともに独特の風情を醸し、古くから小樽を象徴するものとして、画家たちのモチーフになってきました。小樽に生まれ、運河に親しんで育った出身画家は、とりわけ生き生きとした作品を残し「運河画家」の異名で呼ばれる者もいました。やがて物流拠点としての役割を終えても、運河は人々の労働の証であり、心の故郷として重要な存在であり続けました。

1960年代に埋め立ての方針が出されたことで、むしろ蓄積された汚れや澱みのなかにも独特の美があることを見出し、それを絵にする画家が多数を占めました。デザイナー藤森茂男は、潮まつりなどの街づくりの中心となって活躍し、後半生はこの運河保存運動にすべての情熱を注ぎ、くい打ちが始まる直前の1985年に集中して運河を描いた人です。藤森の絵の制作は、運河を全面保存し後世に残したいという運動の、もはや最終手段であったことに、他と一線がひかれます。やがて、半分残された運河周辺には、倉庫を活かした商業施設やガス灯が整備され、現在は多くの人々が訪れる観光スポットとなりました。すっかり様変わりした小樽運河に失望し、描かなくなった画家がいる一方で、現代の視点で新たな題材として、運河に取り組む画家がいることも確かです。

本展は、運河を見つめてきた画家たちの作品を、過去から現在まで網羅し、3部構成により展覧いたします。この街に受け継がれてきたもの、彼らが伝えたかったこと、思い描いていた未来は何だったのか、これらの作品から感じ取っていただければ幸いです。

【第1部】 追想の小樽運河
【第2部】 小樽運河への思い 藤森茂男
【第3部】 小樽運河のいま

特別陳列「運河保存運動の父 藤森茂男」

【出品作家】石塚常男・伊藤正・金子誠治・兼平英示・金丸直衛・木嶋良治・小平るり子・小竹義夫
小林剛・佐藤善勇・白江正夫・鈴木儀市・鈴木傳・角江重一・千葉七郎・冨澤謙
中村善策・羽山雅愉・古屋五男・宮川魏・森田正世史・山田義夫・大和屋巌・渡辺祐一郎 他

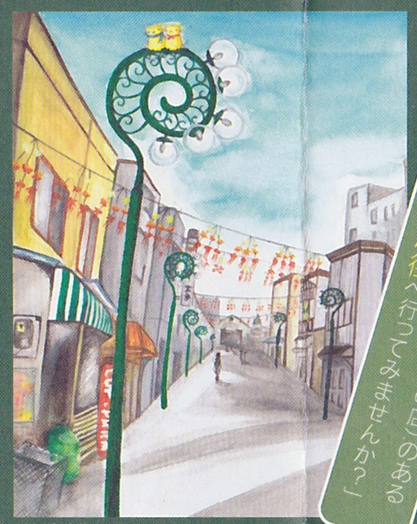
【関連事業】

■展示室講話「夫 藤森茂男と生きた日々」
4月25日(土) 14:00～
藤間扇玉(藤森茂子)

■絵画と舞踊のコラボレーション「運河との対話」
5月9日(土) 14:00～
藤間扇久華(藤森五月)

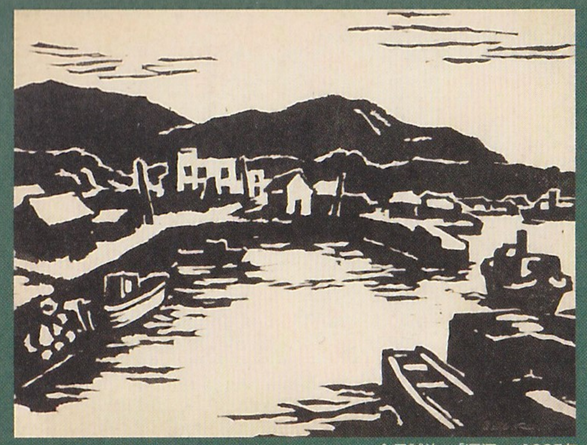
■ミュージアムコンサート「はるかな国と時代へ旅する」
6月13日(土) 14:00～15:30
札幌コダーイ合唱団 指揮:中村隆夫

要観覧料・事前予約 0134−34−0035



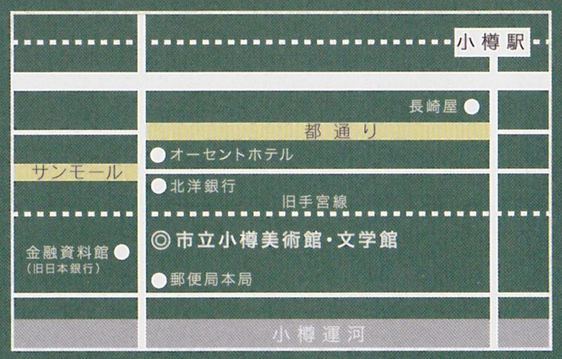
梁川商店街イラスト:RUO

「お帰りに運河画廊(藤森茂男の店)のある梁川商店街へ行ってみませんか?」



金子誠治 「運河」 1935年

小平るり子 「運河のある街」 1992年



市立小樽美術館
otaru city museum of art
〒047-0031 小樽市色内1−9−5
Tel:0134−34−0035 Fax:0134−32−2388